

(様式1-2)

I 学校の概要

学力向上モデル校事業（主体的・対話的で深い学びの実装推進モデル校事業）

坂出市立加茂小学校

◆学校の特色

本校では、令和6年度より「自己選択・自己決定」の場を授業の中に工夫して設定することで、学習の個性化を図ることをめざしてきた。しかし、それが協働的な学びと効果的に結び付き、自己有用感の高まりにつながっているかといえば、充分とは言えず、課題が残る結果となった。そこで、昨年度より、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざすことで、学びの質の高まりとともに自己有用感の醸成が図れるのではないかと考え、研究を推進している。

II 研究主題等

研究主題 「他者と関わりながら楽しさを感じ、個が高まる学びづくり（二年次）」

◆研究主題設定の理由

本校は令和7年度の学力向上モデル校指定を受け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進してきた。令和7年度の県学習状況調査の質問紙調査における肯定的回答では、「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか」の設問で76.0%（前年度+5.6pt）、「自分の考えを伝えようと努力していますか」の設問では80.2%（前年度+1.9pt）であった。これは、児童が話し合い活動の中で友だちの考えを受け入れ、自分の考えと比べたり、良いところを取り入れたりする過程で、多様な見方や考え方を学び、思考の幅が広がってきたことが要因と考えられる。また、教員アンケートの結果から、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導の工夫、普段の授業で児童の学び合う場を取り入れることなど、授業づくりに対する教師の意識も高まってきた。教師自身が授業の楽しさや手ごたえを実感できるようになっていることは成果である。

しかし、すべての児童が学びに参加できるようにタイムリーに支援することや学習の振り返りの時間の確保、数値的な学力の向上が見られないことに課題が残った。

そこで、今後も学びがいのある学習課題を設定して主体的な学びを促すとともに、必要感のある学び合いの場を設定し、深い学びをめざした授業改善を行う。特に、二年次である今年度は、個の視点を大切に、個の分析に基づく多様な支援と、それによる個の変容の見取りを重視して教科のねらいに迫りたい。付けたい力を明確にして、多様性の包摂という観点で授業を捉え、「個が高まる学びづくり」を追究していきたいと考え、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- ① 「児童生徒主体の授業にするために大切にしたい3つの視点」を軸にした授業づくり
- ② 全体との関わりの中での個の分析と個の状況に応じた多様な支援の検討を生かした授業改善

III 成果の評価計画（検証方法）

- ① 全国学力・学習状況調査の結果を基準値として学力分析を行う。
- ② 「研究成果の参考とする指標」による調査を年度始めと年度途中に実施して比較する。
- ③ 年に2回実施している全校生対象の調査「加茂っ子実態調査」で、変容を捉える。

IV 研究成果の普及方法

- ① 香川の教育づくり発表会で、実践内容と成果を県下の教員に発信する。
- ② 坂出・綾歌地区の小学校教員に案内し、研究授業を公開する。
- ③ 本校のホームページで研究内容や研究授業の様子などを公開する。
- ④ 研究内容に沿った表現物を作成し、教職員、保護者、来校者へ研究成果を伝える。